

(Japanese Academy of Learning Disabilities)

日本LD学会会報

第28号



事務局：東京学芸大学心理学研究室内 〒184-0015 東京都小金井市貫井北町4-1-1
TEL. & FAX. 0423-27-2890



LD指導者の養成について

大阪教育大学 障害児教育講座教授

竹田 契一

最近LD児への理解が少しずつ深まるにつれ、LD児を指導する通常学級や通級学級の教師にどんな知識・技能が必要かを早急に考える必要ができました。

今までは、ただ単にゆっくり発達している子どもや少し変わっている子どもとの見方が強く、「学年を下げて易しい教材を使う、繰り返し教える、出来るだけ少人数で教える」などの取り組みがされてきました。

しかしLDの問題には広く 1. アカデミック・スキルを中心に 2. ソシアル・スキル 3. コミュニケーション・スキル及び 4. モーター・スキルなどの障害が重なって起こる事が多く、症状をより複雑にしています。

また近年の脳機能の研究成果からみますと、LDと聴覚系の関係や左右大脳半球との関連などが大きく指摘されています。

この事からも認知心理学及び神経心理学的アプローチがLD教育の基礎の中に含まれるべきだと考えます。

今回、本学会のLD指導者資格検討部会では、通常学級での配慮指導ができることを目的とした「基礎レベル」と通級学級などで評価・IEP作成・具体的指導などができる事を目的とした「専門レベル」のLD指導者資格認定制度を発足することになり、現在具体的なカリキュラム内容を検討中です。

指導領域として、LD概論、アセスメント、指導、コンサルテーションの四領域を考えています。全て大学の授業のような単位制で行い、いわゆるLDの基礎となる心理学系、教育学系などの授業科目は受講者のバックグラウンドに応じて取得単位として認める方針です。また民間のテスト技法講習会の受講も取得単位に含める予定です。

「基礎レベル」ではオールラウンドなLD理解が必要ですし、「専門レベル」になると、実際に事例検討も加わり、LDのアセスメントからIEPの作成、実施など高度の技術が要求されます。

本年度中に開催予定ですので、次の発表を楽しみにお待ちください。